

弓道人の日常の心掛け（1）

4、弓具の取り扱い

1) 弓・弦

- ・挨拶が終わったらまず弦を張り、弓の姿を整えたのち道衣を着装する。
- ・弦を掛ける手助けをする場合は足を踏んばり、肩に両手で末弭を持ち姫反りに手がかけないようにする。
- ・弦かけ板等のないところでは、弓袋等を重ねて当て壁等傷をつけないように注意する。
- ・弦の伸び、掛かり具合、入木弓、出木弓等に注意する。
- ・弦を張って弦の掛かりを修正する時、よく足で下成の辺りを押さえて矯正するが、大切な弓なので足をかけたところはすぐ拭くようにしたい。
- ・弦が毛羽立っているのは手入れが不十分、マグスネをかける。
- ・新しい弦で弦輪は始めは一重かけ、馴れて弦の伸びの修正の必要がなくなった頃に二重かけにする。
- ・弓は矢摺籐、握り革、弦以外のところは握らない
- ・弦巻は弦を張った弓に差し込まない。
- ・他人の弓具にはみだりにさわらず、弓の肩入れ等決してしない。
- ・審査、試合で弦切れ等により替弦を張替えた時、決して肩入れはしない。
- ・弓具店で弓の肩入れをする場合は店主の許しを得るのは勿論、自分の矢尺は引かず右肩先（耳を越える辺り）までとする。
- ・弦を張ったまま長時間置く時は、張り弦は2本かける。

2) 矢

- ・矢は行射の順序を決めておくと、矢の癖が分かり修理、手直しに便利。
- ・楯・襷・胸当てをしたまま矢取りをしたり、そのほかいろいろなことをしない。
- ・矢をあげるときは、外れた矢から先に、中り矢も的の心より遠い矢から。
- ・的枠に矢が立ち、または射抜き、あるいは的の合わせ目に立った時は両膝で的枠を押さえ両手で矢の元の方を握り、手で引かず腰を伸ばす。
- ・抜いた矢は矢羽根を上を上座に向け、矢の根を下に手の平で受け射場に持ち帰る。ガチャガチャさせてはいけない。
- ・矢取りはなるべく下位の人が交代で行ったほうがよい。

3) 楯（ゆがけ）

- ・他人の楯を差したり、弦受け（弦枕）等をみだりに触ったりしない。
- ・楯の着脱は（上座の方向を避け）下座の方向に向かい正座または跪坐して行う。上座に背をむけてはいけない。